

世界の平和を願う歌、そしてロシアの歌曲 3曲、合唱の形が見えてきました！

2月17日

□ 2月17日(金) 18:00~20:30 昂定例レッスンが開催されました。佃さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮で「フィンランディア」「ヴォルガの歌」「ルスカエポーリエ」を、休憩をはさんで「仕事の歌」「想像力」をレッスンしました。ピアノは森二三さん。参加者は全31名でした。



□ 「フィンランディア」：“平和への願いを世界の人々に” “七つの海越えひびけ” と歌い上げる曲。どう昂の声で届けるか・・・

□ 「ヴォルガの歌」：各パート(3部)の分担が明確になり、音源と楽譜がメンバーに届きました。各パートの音程の確保とともに、ひとつひとつのことばの表現について、声の出し方について、指揮者からの指摘が続きました。また3年前の「ヴォルガクルーズ」について、船上での合唱交流やヴォルガ川の雄大な光景との出会い等を語られ、10月に企画予定されている「ヴォルガクルーズの旅」への参加の呼びかけがありました。

□ 「ルスカエ・ポーリエ (ロシアの曠野)」：Ya.フレンケリ作曲、訳詞：坂山やすこ ロシアの名曲「鶴」と同じ作曲家と訳詞者の作品。1月29日改作の楽譜に基づき3回目のレ

レッスンとなりました。事前の練習（2月の各パートレッスン）で歌い込んできたこともあり、各パートのフレーズ毎の確認とともに、上2つ、下2つの、そして4つの声合わせのレッスンが進みました。完成時が楽しみな曲の姿が見えてきました。



□「仕事の歌」は「2月17日改訂版」の楽譜に基づいて、テノールソロの歌とともに、バックのロシア語でのかけ声についてのレッスンが始まりました。

□連絡・報告事項

（沖縄現地から最新情報が飛び込んできました！：編集子）

とんでもない「辺野古が唯一の解決策」

“うちなーんちゅうは絶対に認めない！”

行政権限と現場でのたたかい、世論と運動で日米の「思考停止」を必ず打ち破ろう！
新基地建設反対名護共同センターニュース 2017.2.14

日米首脳会談で米軍普天間基地の移設について「辺野古が唯一の解決策だ」との認識で一致したとの報道に、翁長知事や地元名護市長はじめゲート前に座り込んでいる県民などから強い抗議の声が上がっています。

「唯一の根拠どこに」

稲嶺進名護市長は「マティス国防長官も同じことを言っているが根拠はどこにあるか聞いてみたい。民意には大きな力がある。翁長知事も私も持っている権限を市民益、県民益のために行使していく」ときっぱり話しています。



連日元気に座り込み

大浦湾にこれまでブロックが約20個投下(写真左)されています。

キャンプ・シュワブゲート前では連日数十人～200人規模で元気に抗議行動が展開されています。



午前9時前後には機動隊数十人が出てきて座り込む人々をごぼう抜きにし、数台の作業車を基地内に入れていきます。それでも、さらに抗議の座り込みは連日毎日夕方まで続いています。

新基地建設反対 2・18 海上パレードの成功を！

「美ら海を埋めるな！」「県民は屈しない」
 “連凧づくり” ボランティア募集
 海上パレードに呼応し、瀬嵩の浜で集会が開かれます。この集会に合わせて参加者の思いを凧に託し、連凧を揚げます。

連凧をつくったり、凧にメッセージを書き込むボランティアを募集しています。

ご希望の方は：

新基地建設反対名護共同センター

電話 0980(54)8555 にお申し込みください！

日時 2月18日(土)午前10時～正午

場所大浦湾抗議船は汀間漁港出発(9時半集合)

カヌーチームは瀬嵩の浜出発

集会瀬嵩の浜で海上パレードに呼応し抗議集会を開催します。

主催・ヘリ基地反対協 共催・県民会議

※沖縄連凧の会が当日瀬嵩の浜で連凧を揚げます。参加者で協力しましょう。



左写真は、2014年の辺野古の浜での海上パレードの様子

第11回コンサートコーナー

名曲「さとうきび畑」と沖縄戦 「夢の風ノート」より(2015年07月09日)

「ざわわ ざわわ ざわわ」で始まる名曲「さとうきび畑」は、沖縄の本土返還前の1967(昭和42)年に、沖縄戦の激戦地「摩文仁の丘」を訪れた寺島尚彦さん(1930年~2004年 栃木県出身)が、この場所で感銘を受け、作詞・作曲した作品です。

今回は、全部で11番まである「さとうきび畑」の歌詞から、いくつかを紹介しながら、この曲の歴史と背景にある沖縄戦と平和について考えてみたいと思っています。

♪「さとうきび畑」(作詞・作曲 寺島尚彦)

1番♪

ざわわ ざわわ ざわわ 広い さとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が 通りぬけるだけ
今日も 見わたすかぎりに 緑の波が うねる
夏の ひざしの中で



「さとうきび畑」は、1967(昭和42)年に愛媛県新居浜市で行われた歌手の田代美代子さんのコンサートで、田代さんが歌って初演されました。

田代美代子さんは、戦争中の1943(昭和18)年に東京都で生まれ、1965(昭和30)年にデビューし、この年に和田弘とマヒナスターズと歌った「愛して愛して愛しちゃったのよ」が大ヒットしました。

ちなみに、「愛して愛して愛しちゃったのよ」は、1990(平成2)年に、サザンオールスターズがアルバム「稲村ジェーン」の中でカバーしています。

♪「さとうきび畑」 2番♪

ざわわ ざわわ ざわわ 広い さとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が 通りぬけるだけ
むかし 海の向こうから いくさが やってきた
夏の ひざしの中で

1969(昭和44)年に、森山良子(1948年東京都生まれ)が「さとうきび畑」をレコード化しました。

この時代は、「70年安保反対」の平和運動や「沖縄返還運動」が盛んで、「沖縄を返せ」というスローガンが声高に叫ばれていました。

このような社会情勢の中で、「さとうきび畑」は反戦歌として、当時流行した歌声喫茶などで

広く歌われました。

♪「さとうきび畑」 3番♪

ざわわ ざわわ ざわわ 広い さとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が 通りぬけるだけ
あの日 鉄の雨にうたれ 父は 死んでいった
夏の ひざしの中で

この歌の主人公は、沖縄戦で父を亡くした少女です。彼女は、見たこともない父の面影を、「さとうきび畑」の風の音を聞きながら探す。そんな歌です。

沖縄戦は、第二次世界大戦末期の1945（昭和20）年3月～6月に、沖縄で行われた「日本国内唯一の地上戦」で、日米合わせて20万人以上が戦死し、うち94000人は民間人で、沖縄県に住んでいた子供・老人を含む住民の人たちでした。

この歌が作られるきっかけになった「摩文仁の丘」は、沖縄戦跡国定公園の中にあり、沖縄戦の激戦地の一つです。

♪「さとうきび畑」 6番♪

ざわわ ざわわ ざわわ 広い さとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が 通りぬけるだけ
知らないはずの 父の手に だかれた夢を見た
夏の ひざしの中で

1972（昭和47）年に沖縄は日本に復帰し、沖縄県となりました。しかし、多くのアメリカ軍基地は残り、今に至るまで沖縄の大きな負担となっています。

「さとうきび畑」はNHKのみんなの歌で、2回放送されています。

1度目は、1975（昭和50）年にちあきなおみさん（1947年 東京都生まれ）の歌で放送され、2度目は、1997（平成9）年に森山良子さんの歌で放送されました。

さらに、2001（平成13）年12月には、森山良子さんが「涙そうそう」とのカップリングでシングルCDとして発売し、翌2002年の「日本レコード大賞 最優秀歌唱賞」を受賞しました。

♪「さとうきび畑」 8番♪

ざわわ ざわわ ざわわ 広い さとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が 通りぬけるだけ
お父さんて 呼んでみたい お父さん どこにいるの
このまま 緑の波に おぼれてしまいそう
夏の ひざしの中で

「さとうきび畑」は、森山良子さんがライフワークのように歌い、2005（平成17）年には、長男の森山直太朗さんと「NHK 紅白歌合戦」でデュエットしています。

もちろん、「さとうきび畑」は、ほかにも多くの歌手がカバーしています。たとえば、クラッ

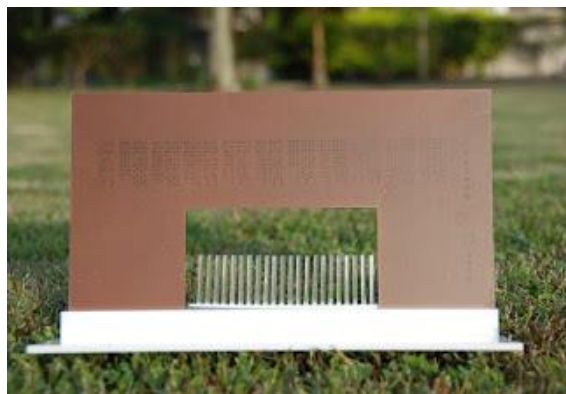
シク系の新垣勉さんや鮫島有美子さん、アニソンの女王と言われる堀江美都子さん、ポピュラー系では夏川りみさんや松浦亜弥さんなどです。

かつて「歌声喫茶」で歌われた「さとうきび畑」は、広く日本中で歌われる歌となっています。

♪「さとうきび畑」 10番、11番♪
ざわわ ざわわ ざわわ 忘れられない 悲しみが
ざわわ ざわわ ざわわ 波のように 押し寄せる
風よ 悲しみの歌を 海に返してほしい
夏の ひざしの中で
ざわわ ざわわ ざわわ 風に 涙はかわいても
ざわわ ざわわ ざわわ この悲しみは 消えない

<さとうきび畑歌碑（沖縄県読谷村）>

2003（平成15）年9月、TBSで「さとうきび畑の唄」というこの曲をモチーフにしたドラマが放送されました。



主演の明石家さんまさんをはじめ、黒木瞳さん、仲間由紀恵さん、坂口憲二さんなどが、沖縄を舞台に熱演し、26.4%という高い視聴率を記録し、芸術祭テレビ部門大賞を受賞しました。

「さとうきび畑」という平和の歌が、いつまでも歌われる日本であってほしいと願います。

また、みんなでそういう日本を守らないといけな

と思います。

最後に、「さとうきび畑」が、夢の燃料になるかも知れないという話をします。

さとうきびから作られる自然にやさしい「バイオエタノール」を燃料に、車を走らせる研究が、沖縄などの国内研究所で進んでいるそうです。

うまくいけば、石油の利権で戦争をしたりしなくてもすむ、平和の象徴に「さとうきび畑」がなるかも知れませんね。

一首：「海風に 平和を歌う さとうきび 涙と笑顔 勇気ささやく」

『ざわわざわわの沖縄戦ーサトウキビ畑の慟哭』 の書評

（著者：田村 洋三 出版社：光人社）

■次々焼き払われたキビ畑 最相葉月（ノンフィクションライター）解説 2006年6月26日掲載

「冒頭、沖縄戦の犠牲者を悼む「さとうきび畑」の歌に関する衝撃的な事実を知らされる。昭和42年に発表されてから20年以上もの間、作詞作曲した寺島尚彦のもとに沖縄からの反響は一通も届かず、沖縄戦を生き抜いた人々の中には、誤解を与えかねない歌だという批判もあるというのだ。

戦時下の沖縄で殉職したヤマトンチュウ（本土人）を主人公に数々のルポを発表してきた著者は今回、サトウキビの品種改良に勤（いそ）しんだ兵庫出身の農事試験場長・北村秀一の生涯を中心に、サトウキビ（キビ）と沖縄戦の関（かか）わりを描いた。

「命の糧」であるキビに光が当てられたことで、地上戦の残酷さはいっそう生々しく際立つ。人々の飢えを癒やし、東（つか）の間の休息の場となったキビ畑。だが米軍は畑を次々と焼き払い、沖縄戦末期には「ざわわ」と揺れるキビなどなかった。火だるまで死んだ祖母の無念を語る者。家族が一人ずつ欠けていった、悲劇の「南部落ち」と呼ばれる逃避行の実態も明らかになる。

本土の沖縄搾取の歴史は薩摩の琉球支配に始まり、キビ生産農民から奪った黒糖は明治維新の資金源だったという。「ざわわ」と歌う前に知るべき人生がここにある。」



(注記)「名曲「さとうきび畑」と沖縄戦 「夢の風ノート」より(2015年07月09日)」と『ざわわざわの沖縄戦－サトウキビ畑の慟哭』の書評■次々焼き払われたキビ畑 最相葉月(ノンフィクションライター)解説 2006年6月26日掲載 がブログにありました。昴のメンバーに「さとうきび畑」の成立背景を知らせるタイムリーな情報として、そのまま転載させていただきました。(編集子)

「ロシアの曠野」のこと (「男声コーラス ヤローズ」のホームページより)

作成日時 : 2016/02/22 07:56

「ロシアの曠野」(ロシアの草原)について、仙台ロシア合唱団が簡単な解説と原語を紹介している。原題「Русское поле」(ルースコエ ポリエ)は「ロシアの草原」の意味。「поле」は「野原」「野」「畑地」「分野」「欄外」「余白」など。「決闘」「獵」「獲物」の意味もあると露和辞典にある。

<http://6614.teacup.com/sendairosiag/bbs/1093>

(CTRL キーを押しながらクリック)

また、「ロシアの草原」 Русское поле

1968年に製作された映画「予期せぬ出来事」の挿入歌として、ヤン・フレンケリ(1920-1989)の作曲、インナ・ゴッフ(1928-1991)の作詞でつくられました。美しい旋律と詩で人気を博し、映画が公開されなかった日本でも翻訳されました。

映画のストーリーは、1920年代はじめのクリミア半島で国内戦に敗北を続けて追い込まれた白衛軍の様子を探る赤軍の若い偵察兵たちが反革命派市民などに化けて潜入、混乱の中でせつなな享樂をもとめる旧有産階級や将校たちの生活や心情を、目撃するといったもの。「ロシアの草原」は、白衛軍将校たちが酒場に集う中、一人の将校がギターをつまびきながら寂しげに唄う、というシーンで登場します。